

② 事前の実施準備  
 検査問題の作成(前項)と平行して、実施の趣旨、方法、処理、解釈などで、効果的な活用ができるような方策を講じた。方法としては、「学力検査の手引」をテキストにし、出張所管内ごとに活用のしかたの説明会を実施した。

③ 実施、実施後の処理  
 問題の構成は、診断的な性格を帯びたものであるため分量が多く、2日間にわけて実施した。

昭和39年2月25日(火)

社会Ⅰ(50分) 理科Ⅰ(50分)

昭和39年2月26日(水)

社会Ⅱ(50分) 理科Ⅱ(50分)

実施後は各学校で採点処理をすることにし、標本校に対しては集計表と泣案の提出を求めた。

結果は採算Tスコア、小問正答率を3月末まで各校に配布し、後日答案分析後に学習指導の資料を報告書で流すことにする。

## 7 全国教育研究所連盟共同研究

全国教育研究所連盟では、昭和36年より3か年の計画で「学習指導法改善のための実証的総合研究」の主題のもとに、国語、算数・数学、社会、理科の4部分を設けて共同で研究にあたっている。本県では国語部会に参加しているため、その経過を述べることにする。

### (1) 研究題目

国語科学習における読解力の形成とその指導に関する研究

### (2) 研究目的

読みの機能に即した児童生徒の読解の様相を明らかにして、そこに読解力形成の契機をとらえて、読解力を高めるための効率的な指導法を研究する。

### (3) 研究の計画

第1年次 読解過程の分析

子どもの読解の様相を明らかにして、望ましい指導法の仮説を設定する。このための読解の様相を明らかにするのが第1年次のねらいであった。

第2年次 読解指導法の仮説の設定と検証

読みの様相や読解の契機をとらえて、指導法の仮説を設定し、検証をするのが第2年次の研究内容である。

この結果については、全国教育研究所連盟編「国語科と読解力の形成、その指導Ⅰ」として出版し、東洋館出版社より刊行された。

第3年次 読解指導理論の構成

### (4) 研究の経過

本年度は第3学年次の研究にあたっているため、前期

においては仮説の設定とし後期に検証および修正として、指導理論の構成は年度を越して継続研究を行なうことにした。なお、共同研究としての実施計画日程は次のとおりである。

① 全国共同研究会

4・24~26 熱海市

6・19~21 福島県飯坂温泉

② 実施の具体案と仮説の設定 6月11日

③ 仮説の検証 11月~12月

全国の計画案の枠内において、東北独自の研究もすすめてきた。とくに、研究の中心である仮説の設定と仮説の具体化(指導案)は本県が当って、東北地区としては共通の課題意識のもとに実施してきた。

### (5) 結果と反省

研究の資料は実験学校の油井小学校の授業を記録(テープ・アナライザー)し、他に面接、作文、ノート等を対象にして結果の分析に当たった。この結果は現在検討中であるが、学習の目的意識の持続とか、学級成員の相互の刺激等の児童の社会性も含めた学習指導法の理論のための貴重な資料になっている。

## 第4節 付属図書館

教育調査研究所の付属施設としての図書室は内容の充実と簡単な貸出し方法により、その利用を深めている。

本年度は新たに262冊の教育図書が加えられ、9,147冊の蔵書となり、外に各県研究紀要、各学校実践記録、研究物、各教科資料と併せて研修に役立つ図書室となっている。

### 昭和38年度購入図書一らん

書名	著書名	発行所
和辻哲郎全集	和辻 哲郎	岩波書店
日本教科書大系	海俊 宗臣	講談社
世界思想教養全集	桑原武夫他	河出書房
日本の百年	鶴見 俊輔	筑摩書房
日本古典文学大系	山岸 徳平	岩波書店
推計学による新教育統計法	岩原信九郎	日本文化科学社
診断と指導のための統計法	田中 寛一	〃
国語の学習指導法	松本小学校	明治図書
読解の学習形態	小竹 省三	〃
文章論的読解指導	倉沢 栄吉	〃
読解の練習学習	平井 昌夫	〃
国語科と読解力の形成	関口 隆克	東洋館
数学教育事典	石谷 茂	明治図書
斎藤喜博著作集		麦書房
新初等数学講座	清水 達雄	ダイヤモンド社